

# 人権だより

(令和5年度8月号)

川之石高校人権委員会 担当 3年次3組

まだまだ厳しい暑さが続いていますね。いよいよ2学期が始まりました。夏季休業中は、人権作文や人権ポスターなどの制作を通してみなさんも人権について考える機会があったと思います。人権委員会では、委員長の平井雪華さん、副委員長の得能奈々美さん、書記の森貞空雅さんが、8月2日に八幡浜高校で行われた「令和5年度人権委員会夏季研修」に参加してきました。

この研修には、八幡浜工業高校・川之石高校・三崎高校・八幡浜高校・愛宕中学校・松柏中学校の人権委員が参加していました。それぞれが自己紹介をした後、講義と演習を行いました。



1つ目は「水平社への歩み—松浪彦四郎と西光万吉の生き様を通して—」という講義で、同和問題の歴史学習を行いました。2つ目は「音のない世界 手話という言葉」というテーマで、八幡浜聴覚障害者協会会長の伊藤佳子さんと愛媛県手話通訳士協会会長の岡野由季枝さんに演習を行っていただきました。

最後には、各校の活動報告や情報交換、感想の発表等がありました。本校から参加した3人の感想をここで紹介したいと思います。



私は初めて手話について学習をしました。耳が聞こえない人は、日常生活で困ることがたくさんあるのだと改めて実感しました。市立八幡浜総合病院には手話通訳の方がいつもおられ、困ったときには通訳をしてくださるそうです。また、救急車の中でもタブレットを用いて手話通訳士の方と連携が取れると知り、すごいと思いました。四国では八幡浜市だけの制度だそうです。しかし、まだまだ改善しなければならないことも多いと知りました。

自分が思ったことをすぐに伝えたり、分からないことがあるときにすぐに聞き返したりすることが、耳の不自由な人には難しいそうです。少しでも多くの方が手話に興味・関心を持って、手話をできるようにになれば、みんなが暮らしやすくなると思います。これをきっかけに、少しずつ手話を覚えていきたいと思います。



私は今回の人権委員会夏季研修に参加させていただき、普段の学校生活ではなかなかじっくりと学ぶことのできない学習ができたと思います。私は福祉サービス系列で学習をしていますが、聴覚障がいのある人が日常生活で困る場面が具体的にわかりました。今後、耳の聞こえにくい方と関わる機会も増えていくと思うので、参考になりました。

手話で伝言ゲームもしてみました。ジェスチャーを使うよりもずっと難しくて驚きました。また、日本語の慣用句や、独特の言い回し（例：水に流す）を手話で表現することが大変でした。今回学んだことを今後の生活に活かしていきます。



私が今回の研修で一番心に残っているのは、聴覚障がいのある方は、「社会の中だけでなく、家族の中ですら疎外感や孤独感を感じることがあり、辛く悲しい思いをすることがある。」ということでした。聞こえる人たちの中には「書けば伝わるだろう。」と思っている人も多いですが、実は伝わりにくく、やはり手話の方がわかりやすいそうです。私は「サイレント」というドラマの影響で手話に興味があったので演習が楽しみでしたが、実際にやってみると思っていた以上に難しかったです。手の動きや順番が違うだけで意味が変わってしまうことも知りました。今回の研修会では、自分のためになることがたくさん学べました。また来年も参加したいし、学んだことを学校でしっかりと伝えたいです。





【みんなもチャレンジ！】


**こんにちは**


**お疲れさま・ご苦労さま**


**ありがとう・感謝・お礼**


**悲しい・悲しむ**


**楽しい・嬉しい**


**助けて・手伝って・サポートして**

簡単な動作から挑戦してみましょう。関心を持ち、知っていくことが大切な一歩です。